

《研究課題名》

高位脛骨骨切り術における術前計画でのアライメントと術後アライメントの誤差に影響する因子の検討

《研究対象者》

2009年2月24日から2026年3月31日までに滋賀医科大学附属病院の整形外科にて高位脛骨骨切り術を行った症例のうち、術後1年経過観察出来た方

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記研究課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の「カルテ情報・レントゲン画像」を用いて行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報の使用について、直接ご説明して同意はいただきず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究への情報の提供を希望されない場合、あるいは、本研究に関するご質問は下記(8)の問い合わせ先へご連絡ください。

(1) 研究の概要について

《研究期間》 滋賀医科大学学長許可日～2027年3月31日

《研究責任者》 滋賀医科大学 スポーツ・運動器科学講座 久保 充彦

(2) 研究の意義、目的について

《意義》

高位脛骨骨切り術は下肢のアライメントを変化させる(0脚からX脚へ変化させる)ことで、変形性膝関節症や膝骨壊死の膝の痛みを改善させる手術です。したがって症状の改善には目標通りの下肢のアライメント(変形の程度)が得られることが重要です。手術後に目標の下肢アライメントとなるように手術前に矯正角度の計画を行います。計画通りの手術を行ったにも関わらず目標通りの下肢アライメントが得られないことがあり、問題となっています。この研究を行うことで、高位脛骨骨切り術が今まで以上により正確に行えるようになる可能性があります。

《目的》

本研究の目的は、手術前の計画と実際に得られた手術後の下肢アライメントの誤差に影響する因子を調べることです。

(3) 研究の方法について

《研究の内容》

高位脛骨骨切り術とは、手術前の変形した下肢アライメントを目標とするアライメントに矯正する手術です。そのために手術前に計画を立てます。手術前の計画通りに正確に手術を行っても、誤差が生じることがあります。カルテの情報(年齢・BMI)とレントゲン画像から得られた様々な計測

オプアウト

値からこの誤差の原因を調べます。

《利用し、又は提供する試料・情報の項目》

カルテの情報（年齢・BMI・手術記録）、レントゲン画像

《試料・情報の管理について責任を有する者》

国立大学法人 滋賀医科大学 学長 遠山 育夫

（４）個人情報等の取扱いについて

本研究を実施する際には、あなたの試料・情報から、あなたを特定できる情報（氏名、生年月日、住所等）を除き、代わりに本研究用の ID を付けることで、その情報が誰のものであるか分からない状態にします。ただし、必要な場合に特定の個人を識別できるように、あなたと ID を結び付けることができるような加工をした情報を残します。尚、加工された情報は、施錠できる場所で担当者によって厳重に管理されます。

（５）研究成果の公表について

本研究の成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。公表の際には個人が特定されることがないように、十分配慮いたします。

（６）研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方又はその代理人の方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。ご希望の場合には、下記（８）の問い合わせ先へご連絡ください。

（７）利用又は提供の停止

本研究の対象となる方又はその代理人の求めに応じて、対象者の方の情報を本研究に利用（又は他の研究に提供）することについて停止することができます。停止を求められる場合には、下記（８）にご連絡ください。

（８）本研究に関する問い合わせ先

担当者：滋賀医科大学 スポーツ・運動器科学講座 久保 充彦

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2472

メールアドレス：hqsmls@belle.shiga-med.ac.jp